



地域での導入例：京都府八幡市（きょうとふ やわたし）

↓ 八幡市役所

Kid's View で、子どもたちの
「育ち」を可視化。
対話を重視した保育を実現！



■ 京都府の南に位置し、古くから石清水八幡宮の門前町として発展してきた八幡市では、平成 25・26 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」（文部科学省委託事業）に取り組みました。Kid's View を元に構築した「園児情報システム」は、子どもたちの成長記録や生活の様子を保護者と幼稚園などが共有でき、質の高い教育・保育環境の実現に役立ちました。

■ Kid's View Report では、事業の推進にあたられた八幡市役所、福祉部次長・教育部付次長の林幸光氏、実際に Kid's View をご活用いただいた八幡第二幼稚園の狩野理恵子園長、八幡市子ども・子育て支援センターの中村真澄美所長のお三方にお話をうかがいました。

- ⇒ P.1 八幡市役所 福祉部次長・教育部付次長 林 幸光氏
- ⇒ P.4 八幡市立八幡第二幼稚園 園長 狩野理恵子先生
- ⇒ P.5 八幡市立子ども・子育て支援センター 所長 中村真澄美先生

⇒ 八幡市役所 福祉部次長・教育部付次長 林 幸光氏

重視しているのは、「対話」。Kid's View の「発達チェック」で、
子どもの「発達資産」の積み重ねが、見える化できます。

■なぜ、「園児情報システム」を構築されたのでしょうか？

■きっかけは、文部科学省の委託事業「早期からの教育相談・支援体制構築事業」でした。特別な支援が必要となる、または可能性がある子どもについて、早期から保護者だけでなく認定こども園・保育園・幼稚園に情報提供することで柔軟できめ細やかな対応が一貫して取れる体制づくりを目指すものでした。そのような情報提供のためには、園と保護者が共有できる保育計画や個別のポートフォリオ（支援ファイル）が必要

となってきます。具体的には子どもの家庭状況や成育歴、保育の過程、成長・健診記録、発達状況などを「見える化」した資料です。Kid's Viewの「発達チェック」機能を活用することで、そのような資料づくりが可能となりました。

この「園児情報システム」は、「気になる子ども」への早期対応を目的に構築しましたが、保育のユニバーサルデザイン化につながり、結果としてすべての園児の教育と保育の質の向上が実現できると考えています。

■ Kid's View を選定したポイントは？

■ まずは手軽さです。「園児情報システム」を活用するためには、日常的なデータ入力が必要ですが、Kid's View はタブレットに対応しており、職員のエプロンのポケットに入るサイズで、画面タッチでの入力も可能。発達記録として動画や写真も撮れることも魅力でした。

しかし、いくら詳細な保育記録があっても、カリキュラムデザイン（指導計画）のもとで分析できなければ役立てられません。Kid's View では指導計画（カリキュラム）作成や管理もできるため、年齢ごとの指導計画にもとづいた、子どもごとの育ちの記録を「見える化」できました。そのことで、担任だけでなく、他の職員や保護者との対話が可能になり、さまざまな形での連携したサポートが可能になりました。また、要録記入など保育業務支援機能もあるので、現場の書類作成の時間も軽減できました。

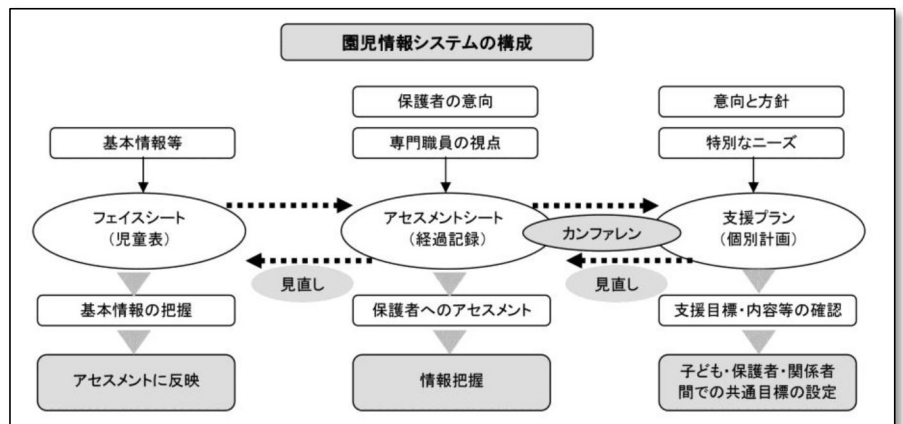
「世界で最も優れた 10 の学校」で紹介され有名になったイタリアのレッジョ・エミリア市の取り組みでは、カリキュラムデザイン（指導計画）、ドキュメンテーション（保育記録）、ディスコース（記録をもとにした親・地域・教師の語り合い）の「3つのD」を重視していますが、Kid's View は、この「3つのD」を実現するためのツールとして最適でした。



↑ タブレットの画面例

■ 「園児情報システム」ではどのようなことを記録していますか？

■ 「フェイスシート」として、子どもの身長・体重、病歴、健康状況などの基本情報を、「アセスメントシート」は、身体面・心理面・環境面から子どもの行動チェックを行い、保護者との面談資料として使用し、保護者の意向や専門職員の視点なども加えた、子どもの支援プラン作成に活用しています（P.7に見本を掲載）。さら



↑ 園児情報システムの構成

に、保育の5領域を踏まえた「発達状況一覧表」などのチェックシートも活用しています(P.8に見本を掲載)。

これまでも「母子健康手帳」などで年齢ごとの発達状況や病歴などが記入されていましたが、保護者としては「もう3歳なのにこの項目ができていない」などマイナス面に目が行くことがあったかと思いません。八幡市では、発達を積み上げていくものとしてとらえる「発達資産」という考え方をもとに「発達チェック」を行っています。

例えば、「ひと月前に比べ、こんなことができるようになりましたね」と、保護者と共に子どもの育ちを確認するための「記録」という考え方です。大リーガーのイチロー選手は、日々上下する打率ではなくヒット数にこだわって打席に立っていると聞きます。一度打ったヒット数はなくならないため、一喜一憂することなくモチベーションを維持できるそうです。「発達チェック」も同様に、できるようになったことを「積み重ねていく」視点が重要だと考えています。

特に、核家族化の進展などで子育て環境が変化する中、育児に対し不安を感じる保護者も増えてきていますが、そのような保護者も「子育て肯定感」を持てるような取り組みが必要となっています。

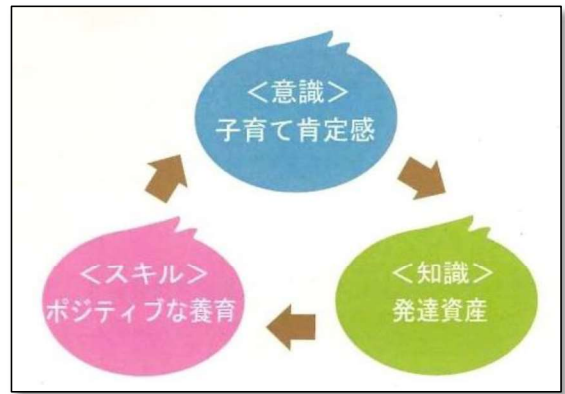
⇒「発達資産」

アメリカの国立小児保健・人間発達研究所の研究。子どもが健康な生活を送り、学校や家庭、社会で積極的な意識や態度を身に付けていくのに何が不足し、何が必要かを明らかにした。地域や家庭環境など外的資産と、子ども自身の心理面や行動などの内的資産に分けられる。

■八幡市での「子ども・子育て支援事業」の特徴は？

■八幡市では一人ひとりの子どもが健やかに成長できる社会づくりを目指し、これまでの取り組みを元に「子ども・子育て支援事業計画」を策定。① 質の高い教育・保育の総合的な提供、② 保育の量の拡大・確保、教育・保育の質の向上、③ 地域の子ども・子育て支援の充実。この3つの課題に取り組んでいます。

子どもにとって良質な保育環境を実現するためには、保護者の協力も不可欠です。右図のように、【意識】としての子育て肯定感、【知識】として「発達資産」に対する理解、【スキル】としてポジティブな養育（子どもの学びや成長を促すような子どもとの接し方）。保護者にこの3つの要素の意欲・意識づけを行えるように「子ども・子育て支援センター すくすくの杜」を平成27年5月に開設しました。市内の乳幼児や保護者が遊んだり、情報交換をしたりできる場としてだけでなく、保護者をご自分の携帯端末からKid's Viewにアクセスし、わが子の「発達チェック」を手軽にできるシステムを導入しました。また、その記録をもとに専門職との育児相談を受けることができます(P.5の中村所長のインタビューを参照)。



↑ 保育環境に関する保護者の意欲・意識づけ

その他、さらに市内の教育・保育の質を向上させるため、Kid's Viewを私立の園も含めたすべての園で導入できるように、設備費などの支援も検討しています。

⇒ 八幡市立八幡第二幼稚園 園長 狩野理恵子先生

「発達チェック」によって、これまで気づけなかった子どもの「小さな育ち」を実感できました。

■「園児情報システム」導入の効果は？

■この「園児情報システム」は、「早期からの教育相談・支援体制構築事業」（文部科学省委託事業）の一環として「気になる子ども」への早期対応を目的として導入したのですが、それだけにとどまらず、これまでは見過ごしがちだったすべての子どもの「小さな成長」も実感することができるなど、保育の質の向上に役立つツールでした。

例えば、Kid's View では毎月、園児の「発達チェック」を行うのですが、年齢ごとに「保育の5領域」にもとづいたチェック項目が設定されているので、初任の担任でもチェックできます（P.8に見本を掲載）。また、それぞれの項目は各職員で共有できるので、チェック内容を他の職員に相談することもでき、経験の浅い職員も安心してチェックすることができます。このことは職員自身の成長につながり、保護者からの信頼にもつながる効果です。

作業は、タブレットのタッチパネルで内容項目ごとに3段階でチェックするだけなので、思ったほどの負担感はありません。気になることがあれば、「コメント」を入力できるのも助かります。印象深かったのは、「排泄時のあとしまつ」の項目に5月には「まだ、職員の手助けが必要」とコメントされていた子が、6月では「手助け」が必要でなくなりました。それに気づいた初任の職員が、「たった1か月でも子どもたちは成長するのですね」としみじみと感想を漏らしていたことです。



↑ 狩野理恵子園長



↑ 担任と加配の先生が、Kid's Viewで「対話」。気になる子どもの状況の共通理解に。

■デジタルのシステムということでのメリットはありましたか？

■事務の効率化という面では、かなり効果的です。「発達チェック」のデータは、保護者用の「保育だより」と連動しているので、簡単に個人別の「保育だより」が作成できます（P.9に見本を掲載）。「指導要録」にも反映されるので、手早く作ることができました。まさに、デジタルの利点を生かした機能です。

また、「対話」のためのツールとして役立ったのが、写真や動画を手軽にとれるということです。保護者に対しては、「お子さんは、竹馬に乗れるようになりましたよ」など、がんばっている場面を見てもらう。職員間でも、情報共有や指導方法の工夫・改善の材料になります。特に、他の先生の指導のようすをみる機会が少ないので、職員研修には非常に役立ちます。

■デジタルシステムの導入にあたり、職員のみなさんの反応は？

■提案した当初は、「アナログの保育からデジタルの記録に？」という戸惑いからはじまりました。不慣れなパソコンを使うことへの抵抗感や、職員間のコミュニケーションが不足するのでは、子どもを規格化してしまうのではなどの懸念があったことは事実です。

ところが、共通の「見える化」された資料があることで、かえって職員間のコミュニケーションが増え、子どもの「育ち」も細かく見ることができるようになりました。

ただ、Kid's View に登録されているテンプレートは市の実態に合わせ多少のカスタマイズが必要でした。また、年間・月間指導計画はいいのですが、週の計画は長年使用している八幡市独自の書式と合わないもので、現在は利用していません。今後は、このような点も改善され、さらに使いやすいものとなってくれることを望みます。



↑ Kid's View の発達チェック画面

⇒ 八幡市子ども・子育て支援センター「すくすくの杜」 所長 中村真澄美先生

スマートフォンで、保護者もわが子の「発達チェック」。地域全体で行う子育て支援システムです。

■八幡市子ども・子育て支援センターとは、どのような施設でしょう？

■八幡市子ども・子育て支援センター、愛称「すくすくの杜」（以下「すくすくの杜」）は、八幡市に住む、およそ3歳未満のお子さんとその保護者が、自由に遊んだり情報交換をしたりできる施設として平成27年5月に設立。毎月のべ2,000名以上の利用者があります。

現代では、核家族化や就労環境の変化、地域コミュニティの希薄化など、子どもと子育てを巡る環境が大きく変化しています。保護者だけで子育てを行うのではなく、地域全体で子育て支援をできるように、「すくすくの杜」では育児に不安感をもつ保護者の育児相談なども行っています。その際の資料として、Kid's View の「発達チェック」を活用しています。保護者がスマートフォンから Kid's View にアクセスでき、ご自分のお子さんの「発達チェック」が手軽にできるシステムです。



↑ 中村真澄美所長